

## 会社を設立して判ったこと (企業と大学の文化とを比較しつつ)

### はじめに

65歳を過ぎ初めて自分で法人(コンサルタント企業)を設立して判った事, 感じた事で法人設立を考えている方の参考となればと記しました。(株)として良かった事, 大変だった事, 色々知らなかった世界を体験した事もまとめました。また, 私は今まで, 会社員, 大学教員, 会社経営者の3つの世界を経験しましたので, これら比較も交えて述べます。

### 1. 自分の生き立ち その1(企業編)

大学卒業後に地元企業の, 川崎重工業の航空機事業本部に入社し, 約30年勤務し, この間, 工作, 生産技術, 部品工作, 品質保証などを経験し, 途中で兼務出向して, 日本民間航空機開発協会や川崎重工業の協力企業なども少しだけ経験しました。今思えば, 航空宇宙一筋でやってきましたが, その中で様々な立場を経験し, 時に忙し過ぎて辛い時もありましたが, 総じて充実した毎日を過ごしました。

入社当時は, 航空機材料がアルミ・チタン等の軽金属が主でしたが, 30年勤務するうち, 複合材料であるFRP(繊維強化プラスチック)の使用割合が増えてきました。FRPにはGFRP(ガラス), BFRP(ポロン), CFRP(カーボン)などあり, それに関する研究に多く関わりました。会社生活後半では, 協力企業や外部から品質保証や人材育成教育の講師を頼まれる機会も増え, 航空機産業人材育成や航空機部材研究など, CFRPと関連する内容も多くありました。会社では技術士取得が推奨されており, 42歳で技術士を取得, その後に岐阜県技術士会で幹事役などを務めました。その経験がその後の人生にも大きく繋がる事となりました。社内でも多くの組織を渡り歩きはしましたが, 一貫して複合材料と切削加工が私の専門領域で, それを中心に多くの仕事をしてまいりました。

### 2. 自分の生き立ち その2(大学編)

50代半ばで, 岐阜県や岐阜大学でCFRPなど複合材料の研究を行う組織を作る話が持ち上がりましたが, 研究者がおらず県関係者から岐阜大学に来ないかと誘って戴きました。会社にて管理職業務で忙しい中でしたが, 研究開発も懐かしく, 講師など務めるにも業務の合間に遠慮して行っていました。大学でははばかりなく打ち込めるかなと思ったりしました。そのような事で, 岐阜大学に異動する事となりましたが, 当時まだ博士号もない

私を教授職で採用して戴いたのは、企業の研究開発経験以外に、技術士として講演・執筆等の活動実績を評価して戴いたのではないかと思います、

さて、大学では研究室を戴き、CFRPの加工技術に関する研究を始めました。研究費は、大学からのスタート資金と、国プロ予算の一部などを戴いて始めました。今思えば、様々な研究を自由にさせて戴き、色々な実験装置も導入して研究する傍ら、研究者を集めて欲しいという依頼から、彼方此方の大学や研究機関に当たって人集めを行い、後に岐阜大学複合材料研究センターを作るお手伝いなどを致しました。

大学の研究費は非常に限られ、殆ど自分で獲得しなければならない事を知り、多くの競争的資金や共同研究助成事業などに応募しました。スタッフに払う人件費確保も必要で、自転車操業のような毎日で、研究室は一種のミニエンタープライズの様なものです。近年は企業と組んで応募するタイプの研究費が多く、大学だけでなく企業との連携が重要ですが、企業出身で技術士会でも活動していた事から、人脈に恵まれ、多くの方々に助けて戴きました。大学の先生方は、実に雑用が多く、常に忙しくされ、個性豊かな方々が多く、企業感覚ではなかなか想像がつかない世界でした。研究目的が一致し、人間同士の感性が合わないと、研究がかみ合わない事もありました。

私は企業に居たので、研究は沢山して来ましたが、学術論文が無かったので、博士号を取るためには、論文を何本か書かねばなりませんでした。60歳過ぎてからやっと博士号を取得しましたが、実にお金・時間・労力・根気のいる作業でした。

さて、65歳となり、企業も大学も定年を迎える年となりました。まだまだやり残した研究が多々ありましたが、研究室を片付け、購入した多くの研究機器は親しい先生方に委ねてまいりました。大学の10年間は実に充実して楽しい毎日でした。

### 3. 自分の生き立ち その3 (企業設立編)

前置きが長くなりましたが、私は会社にいる時から、将来いつか自分の会社を作る事を夢見て来ました。しかし、それが明確な目標で無かったためか、ずるずると起業が遅れ、結局定年というタイムリミットとなってしまいました。大学を辞める1年前から、具体的に考え始め、数か月前から様々な準備手続きをしました。会社設立本も読みました<sup>\*</sup>)。企業の目的は明確で、自分が今までの仕事で多く関わってきた複合材料を中心とした教育やコンサルタント事業を起こす事です。一番迷った事は、個人事業とするか法人とするかでした。色々な方と相談した所、法人設立は手続きが面倒な上に、一定以上の売り上げが無いと税制上不利になる一方で、法人にすると企業とお付き合いしていく上では、信用がかなり違っていると聞きました。次に法人でも株式会社か合同会社か合資会社など(有限会社名は現在廃止)の選択は、コストは多少かかるが、一般的である株式会社にしました。会社名は、新しい事を行う研究所という意味から、「株式会社先進技術研究所」と命名しました。

その後、定款を作り公証人役場に行き、法務局に行き登録し、資本金を決めて振り込み、会社印を作り、印鑑証明を取り、・・・などなどお役所巡りの連続でした。

その他にも従業員を雇うため、ハローワークや年金事務所や市役所や税務署等に行き社会保険加入の手続き等を行いました。また、自分は自宅でもよいが、従業員が働く場として事務所の確保や電話設置、ネット環境やOA機器用意、メールのドメイン取得、会社ホームページの立上げ等、やることは山ほどありましたが、一步一步楽しんで進めました。

さて、並行して営業活動として知人に挨拶状を出したりしましたが、幸いにも設立直後にお客さんが現れ、営業活動を殆どする間も無く会社が動き始めました。すぐに会計処理が必要になりましたが、自分は不動産の個人事業を傍ら細々と営んでおり、毎年青色申告をしてきたので、自分で出来ると甘く考えていました。しかし、法人会計はかなり時間が割かれ想像以上に複雑であると知り、クラウド型会計システムを使い、入力はパートさんに、定期的チェックや決算業務は起業塾で知り合った税理士さんをお願いしました。

#### 4. 会社を運営して感じたこと

何とか設立後2期が過ぎ2度目の決算を済ませ、納税しました。設立後2年間は消費税免除ですが、3期目からは払わねばならず、会計処理もより複雑になります。

さて、税金ですが、大きく分け4種類払うことを知りました。私の場合は税務署だけかなと思いきや、県にも市にも払う必要があります。すなわち、①法人税と②地方法人税(税務署)③法人県民税(県税事務所)④市町村民税(市役所)更に今後⑤消費税(税務署)が加わります。これら支払先が違う訳で、フォーマットも違い、徴収する組織も別々にある。会社設立も税金支払いも、ワンストップにはなっておらず複雑怪奇!行政のダブリや無駄があり非効率です。昔の江戸時代の年貢や古代の租庸調と変わらず、むしろ複雑になっている気がします。日本は四公六民から五公五民(民が50%役所が50%)に近づいているとも言われ、財務省は税金の種類を増やすことに躍起で、行政の重複や無駄が全く整理されていないと感じます。会社や大学にサラリーマンでいる間は、直接税金を納めないの、あまり知らない世界でした。

次に、従業員ですが、技術系のパートさんと設立当初からやってきましたが、忙しくて会計まで手が回らなくなり、会計処理と給与計算専門の在宅パートさんを新たに雇いました。また、委託業務のハードルが高いため、私一人では技術面が心もとなく、外部の技術専門家も雇いました。結局3名+自分の報酬で売上げの8割近く占め、事務所代や光熱費や税金など諸経費を入れていくと、僅かな利益しか残らない状況です(泣)。

一方で、自分のライフスタイルはどう変わったかと言えば、上司がいない訳で、誰からも指示されることが無く、全て自分次第ということです。相談相手も限られるため、ある意味孤独です。自分が頑張ればそれなりの見返りが有るが、何もしなければ何も無い。ただ

---

#### 【日本技術士会岐阜支部 会報の情報連絡先】

〒509-0108 各務原市須衛町1-179-1 テクノプラザ5F  
TEL: 0583-79-0580 FAX: 0583-85-4316 Email: gcea9901@ybb.ne.jp

## 日本技術士会 岐阜支部 会報

2021. 10. 19

従業員を養うため、仕事がうまく行くよう維持管理して、稼いで来なければいけない。ある意味で、従業員に使われていると言えなくも無いですね。少しでも社会貢献になれば、

モチベーションと言えば、自分がやりたいことを実現していく、今までの会社や大学の研究室で出来なかった事や、やり残していた事を行っていく。自分の一生を仕上げて行くといった感覚です。65歳で起業しましたが、もう少し若ければ、もっといろいろな目標も立てたでしょう。従業員100名の会社にするぞ！とか、上場するぞ！という大きな目標を作ったかも知れませんが、しかし年齢を考えると、無理せずスリムなスタイルで効率よくやって行くといった事でしょうか。今から思うと起業するなら40代が良いかもしれません。

会社設立時に年金事務所に行ったとき、年齢を聞かれ、今から会社を作る人がおられるんですね！と驚かれました。しかし、私が技術支援している企業の社長さんは、74歳で新事業を始められた方でした（2社目設立ですが）、上には上がいます。伊能忠敬が日本の測量を始めたのは55歳ぐらいから、渋沢栄一が設立や育成した会社は約500社、リコー三愛グループ創設者であり市村賞で有名な市村清氏が創った会社は200社以上と言われています。そんな方とは比べ物にもなりません。過去の偉人に少しでも見習える所や良い所を学んでいきたいと思えます。できれば85歳まで現役で活動したいです。

最後に、経験してきた分野の文化の違いを表にまとめました。色々述べましたが、今後起業を考えておられる方がおられたら、何らかの参考にして戴ければ幸いです。（以上）

表 1 経験した企業と大学と私企業の文化の違い（あくまで個人の見解です！）

項目	(主に大) 企業	(主に国立) 大学	(零細) 私企業
雰囲気	社風 緊張し管理された雰囲気 忙しくプレッシャー	校風 自由な雰囲気 雑用多い 外からのプレッシャー少ない	経営者次第 (アットホーム)
環境	街中 工場 騒音 大部屋 常に周りに人	郊外 静か 個室 学生 学生が来ると賑やか	事務所設定次第
人のタイプ	社会人 組織人 サラリーマン	自由業 個人主義 プライド高い	自由業に近い
目標・ベクトル	組織の目標 >> 個人の目標 目標に向けて一致団結	組織の目標 << 個人の目標 バラバラ	経営者の目標 従業員の思い
人間関係	明確な上下関係 上司 同僚 部下	教職員 学生 緩い 教授 准教授 助教 研究者	経営者と雇用者次第
給与	大企業 100とした場合 中小企業 70-90??	60-70?? (国立) 70-90?? (私立)	経営次第 (大企業の半分??)
やりがい	報酬 昇進 達成感 義務感 . . .	知的好奇心の満足 好きで仕事 名誉/知識欲 教育の喜び . . .	経営者の思い次第
勤務時間	しっかりと管理 残業制限	管理は殆ど無 自分次第で忙しい 休日もない	設定次第 (自由になる)
効率化	電子化 事務作業効率化	昔のお役所的 学部や大学間でバラバラ	手作業が多い クラウド型会計
管理全般	しっかりした厳しい管理	お金以外は緩い管理	緩い (自分次第)

\* 参考文献： 株式会社の作り方と運営 小谷羊太他 成美堂出版 2018

## [ 日本技術士会岐阜支部 会報の情報連絡先 ]

〒509-0108 各務原市須衛町1-179-1 テクノプラザ5F  
TEL : 0583-79-0580 FAX : 0583-85-4316 Email: gcea9901@ybb.ne.jp